

## 令和5年度 学力向上推進プランについて（結果）

### I 各質問紙及び学力調査の結果

#### (1) 全国と東京都の学習状況調査に伴う質問紙の結果

令和5年度 全国生徒質問紙・東京都生徒質問紙より  
令和2年度から令和5年度 全国学力・学習状況の生徒質問紙(本校3年生)

問題番号	質問事項	R2	R3	R4	R5	R5都
4	自分には良いところがあると思いますか。	77.2	72.6	70.4	78.8	80.1
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか			77.3	86.2	84.6
7	将来の夢や目標を持っていますか。	71.2	56.5	70.5	60.2	64.3
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか			56.5	78.0	65.7
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	89.0	93.2	90.4	95.9	93.4
12	学校に行くのは楽しいと思いますか。		78.8	72.2	88.6	81.6
16	家で自分で計画を立て勉強していますか。	57.6	54.2	59.1	65.0	56.3
17	平日、学校の授業以外に一日あたりどれくらい勉強しますか。(1時間以上)	84.0	70.2	66.0	74.8	71.2
20	平日、学校の授業以外に一日当たりどれくらい読書を読みますか。(30分以上)	21.2	41.3	23.9	29.3	29.1
40	生徒の間で話し合うことを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	81.3	81.7	80.0	87.0	80.1

#### (2) 令和5年度東京都児童生徒の学力向上を図るための調査質問紙の結果

令和5年度 東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査用紙(泉中学校)		当てはまる		+評価		R4の+評価	
		本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
12-1	授業では、問題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じる人が多いと思う。	41.7	36.0	85.4	83.1	80.2	82.0
12-2	授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。	36.7	31.0	83.6	80.2	77.4	78.7
12-3	授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。	32.1	26.9	77.6	74.0	70.6	72.1
12-4	授業で他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。	49.9	39.5	88.7	84.7	83.3	83.2
12-5	授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間があると思う。	39.1	31.3	81.4	77.9	78.9	77.2
12-6	授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてもらっていると思う。	31.2	24.7	75.2	71.5	63.6	70.9

#### (3) NRT（数研式 標準学力検査）の結果

令和3年度から5年度 数研式標準学力調査(NRT)

	国語	社会	数学	理科	英語
R5年度	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023	2021・2022・2023
1年生	○・○・47.4	○・○・43.7	○・○・47.1	○・○・42.6	○・○・49.3
2年生	○・47.7・49.3	○・44.4・44.0	○・47.9・46.7	○・44.1・42.6	○・50.5・49.3
3年生	47.9・50.7・50.2	46.7・47.8・49.2	48.6・49.8・50.2	43.0・52.9・52.0	51.0・51.7・50.3

## Ⅱ 授業改善の方針及び対応策

### 1 方針

青梅市「学力向上5か年計画」～勉強が好き、青梅好きな子の育成～継続(学びに向かう力・人間性等)・定着(知識及び技能)・追及(思考力・判断力・表現力等)を伸ばす取り組みを全教育活動を通して実行することができた。

5年間の校内研究である「探究と協同の学び」の創造をテーマに、一人も独りにしない学び及び一人残らず、学ぶ権利を保障していく学びの授業を追求した結果、自己有用感の向上が見られ、学習に対する意欲も向上する数値となった。学習に意欲的に取り組む生徒が多く、基礎基本の定着(知識・技能の習得)をさせ、ジャンプの課題・協同・探究を重視した授業を展開する必要がある。また、読解力(情報の整理・理解など)とともに思考力・判断力・表現力等や、意欲的に根気よく取り組む姿勢を育む必要がある。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用し、「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

### 2 対応策

#### (1)各教科等の指導に関すること

##### ア 「探究と協同の学び」の継続

これまで培ってきた協同学習を継続させた授業を展開する。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用し、「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

##### イ 単元指導計画の充実

授業観察時に単元指導計画の記載された指導略案を提出させ、教員の単元指導計画への意識が高める。単元のねらいとする学力を付けるために、より主体的に学ぶ生徒の力を引き出せる授業を行わせる。

##### ウ 「授業指針」に基づく日常の実践

「授業指針」を念頭に入れながら、単元指導計画を作成させ、授業を展開する。

##### エ 授業研究による切磋琢磨

校内でお互いに授業を見合う研修を引き続き実施する。主体的に学習に取り組める生徒を育成するために、ICTを有効活用し、個別最適な学びを進める手段や方法を追究していく必要がある。

##### オ 物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力(「クリティカル・シンキング」)の育成

「3つの内言(他に考えはないか・分かりやすいか・本当にこれでよいか)」を提示し、授業の終わりに振り返りの時間をとる必要がある。

##### カ 授業観察及び面接を活用した授業力向上の取組

年間3回の授業観察及び面接を通して、教師一人一人の課題解決に向けた指導・助言を行う。

#### (2)学校教育全般に関すること

##### ア 言語活動の育成

毎朝の10分間読書をはじめとして、「ノー原稿」発表など、伝える力を付ける。

##### イ 自己有用感の育成

生徒会活動やボランティア活動など生徒が活躍できる場の提供を意図的に提供し、自己有用感を醸成する。